

# 関西研修旅行

## 参加会員のたより

奈良—吉野—高野—粉河寺

10月26日—30日(4泊5日)

はじめの試みとして、旅行参加会  
員に葉書感想文をお願いした。お寄せ  
頂いた感想文は、人それぞれの特色が  
あり取捨できたいので、重複をかえ  
りみず全員収録した。しかし、はじめ  
の挨拶やお礼などの文は省略して感想  
文だけにした。

五十首順に掲載したが、上杉氏のも  
のは長文であったので最後に、矢田先  
生のものは美術論として別掲にした。

(塩月)

佐伯市長瀬 今泉 信子

年令層が厚くこの度の旅程が適度という  
感じでした。奈良の寺院巡りは二日程かけた  
い、ゆっくりならもう少しおぼえていそ  
うですが、これより長い日数では旅疲れがす  
ることと思われず。

奈良の寺院は初めて見るのと同じです  
(修学旅行に参加した時より四十三年も経  
っている)どこも同じように入り交じ  
ってしまい、ぼつとは思いませんが、  
事前学習やお借りしたガイド本で改めて思  
いを新たにしています。もう一度行ったら

仏像等がもう少しはつきりするでしょう。  
飛鳥資料館、高松塚古墳、吉野山、これ  
も一日の日程でしたが、趣が違いうし距離が  
はなれているのでそれぞれの印象が深く残  
りました。矢田先生から精しく説明を戴い  
たのもあずかって。

御計画をたてるのも大変でございました  
でしょう。参加させて頂いて有難うござい  
ました。

佐伯市海崎 川村 益子

この度は先生方の綿密な御計画に依って  
すばらしい旅をさせていただきました。唯  
々感謝で一杯でございます。天候に恵まれ  
まして奈良のスケールの大きな古代文化を  
満喫しましたし、念願の吉野山は又素朴な  
昔を偲び、柿の葉ずしは殊の外おいしく、  
豊富な柿を沢山買いました。

殊にすばらしいのは高野山で、すっぽり  
と歴史文化の中に入りこませて頂きました。  
本覚院の宿坊も丁寧で暖房も入っており、  
精進料理も大変おいしく頂戴しました。  
お蔭様で朝早くから心身共に鍛われまし  
て、帰ってから健康が増したようです。

健全なよい団体に加わらせて頂いた事を心から有難く喜んでいる次第でございます。

#### 拙句

くず餅をたずねて吉野の秋深し

佐伯市東区 清田 義雄

#### 関西旅行想い出の一駒

計画する者にとって一番心配になるのは天候で、出発時の強風で周防灘が気になった。神戸に着いてガイドが一番に「昨日のテレビ放送によると荒天だったがどうでしたか」と聞かれたが「静かだったよ」と答えられる程船が大きかったので快調、雨にも会わず時間も好都合でバスの走行順調。因尾の柳井老女史の元気に驚き、一人の障害もない旅行は、よかったなとほっとした気持ちで一ぱい。

現地ガイドは単調なコースも見学個所として生かしてくれた。ゆっくり見たい飛鳥路を、無理な日程を組んだと心にかかっていたが、歩く予定の場所をバスが走ってくれて、予期以上の見学を果たしたと思つて安心した。

大和朝廷発祥の地としての飛鳥の地は万

葉を繙き、足にまかせてゆっくり味わい、想いを古にさかのぼらせて味わう地、長い年月の荒廃に尚残る山河、一木一石に語りかけるものをつつとしたい土地だけに、全貌を見渡せる甘樫の丘を尋ねる余裕をもてなかったことを心残りに思う。

四国一周旅行につながる高野山と粉河寺詣でに納経帳が又埋められた。

バスを使つても歩かせるといふ史談会の研修旅行は、吉野のコースで又長い道であった。僧兵を擁した堅城吉野の名残を留める大橋も（橋そのものは極小さいが）歩いて確かめられた収穫であった。

#### 蒲江町蒲江浦 小戸 鈴 恵

いつに変わらぬ史談会ならではの研修旅行心から御礼申し上げます。何事によらず無知な私には、この旅行が何よりの勉強の機会ととても喜んでいきます。

自分の足で大地を歩き目で確かめ、そして先生方のお話を聞くこの旅行の楽しさは、参加した者にしか分らないと思います。健康と休暇の取れる限りお願い致します。

神戸港で皆様とお別れして、おかれて一

昨日帰って参りました。帰りに塩月先生のお話ですと、船賃の旅費の還付があるとのことでしたが、精算して残りが御座いましたらどうか会の方へ繰り入れて下さいませようお願いします。

弥生町江良 古藤田 太

おおみわ  
大神神社

おおみわの山をおろがむその庭に今たけなわに秋菊の咲く

(註)大神一族即佐伯氏には因縁浅からぬ神社と思われる。

法隆寺をのぞむ

そのかみにいかるがの里を血ぬらせし鎮魂の寺の黒き塔見ゆ

(註)六四三年蘇我入鹿、輕王子等いかるがの宮を襲い聖德太子の一族二十三王及びその従者達をほろぼす。法隆寺はこの罪をあがなう為の鎮魂の寺であるとも言ふ。

吉野の里で

柿の葉寿しの味のうれしき如意輪寺も  
とどり塚は草にうもれて

(註)一三四八年四條殿の戦を目前に

控えて楠木正行主従等が吉野の  
皇居に訣別のために訪れ、もと  
どりを切つてこの如意輪寺に埋  
めたと伝えられる。

色あせて高くしずもる蔵王堂南朝哀史  
語るがごとし

高野山で

杉かげに苔むす墓の数知れず王者の夢  
のいかにはかなき

粉河寺

粉河寺屋根の造りの異相なるみ仏達の  
多き寺かな

(註)山号は風猛山、現在粉河観音宗

西国三十三ヶ所第三番札所、国  
宝の絵巻「粉河寺縁起」があ  
る。

佐伯市青山 後藤 季雄

今度の旅行程よい旅行は私にとって有り  
ませんでした。

至る所の建築の立派さにびっくりし、中  
に安置する仏像のよさに千古の昔の日本の  
文化を思い浮べ、古人の知恵と努力に感じ  
入りました。

高松塚古墳の壁画は千年以上も経過した  
のになお鮮明さを失っていない、すばらし  
い絵具など矢田先生からお話を聞き、何  
かも驚きました。

高野山奥の院の地下室には初めてお参り  
ができました。

お蔭で帰りに子供にもゆっくり会えまし  
た。愚妻の句です御笑覧下さい。

吉野路に哀史を偲び秋の風  
古寺を尋ねて日本の秋深し  
靈山のよわい幾年高野嶺

佐伯市匠南区 塩月 佐一

朝一番乗りの法隆寺はすばらしかった。  
いつも団体客でゴった返してざわめいてい  
るが、静寂そのものの法隆寺の印象は忘れ

難い。しかし走る走るで残念だったが、大  
宝蔵館の夢違観音と百済観音は前から横か  
らしみじみ鑑賞することができた。

大和一の宮の大神神社の参拝は思いの外  
の収穫だった。いにしえの人の自然崇拜の  
姿を目のあたりに見て感慨深かった。

飛鳥の里は時間をかけてゆっくり歩きた  
い心で一杯だった。いつの日にかそうした  
日を持ちたいものだと思う。資料館前の石  
人は一つ一つカメラに収めたかったが、光  
線の都合で少ししか写せなかった。

林を出ると忽然とあらわれた如意輪寺に  
しばし足を止められた。飾り気のない古び  
た椀皮葺の建物は大自然の中にしっくり溶  
けこんでいた。弁内侍の至情塚、正行の鬻  
塚に一人哀感を催した。

巨人の如く大空に突っ立つ蔵王堂に往時  
の修験道を思い、堂前の大庭に大塔の宮を  
偲び、義光自刃の櫓を尋ねるとあちらの方  
ですと教えてくれたが、時間がないので行  
くことをあきらめた。走るようにして南朝  
四代の皇居跡を石段の途中から写し、一行  
を追った。吉野も、高野もゆっくり時間を  
掛けて歩きたい。

大分市上宗方 寿間田 八千代

この度は出発前から最後まで色々と手の行き届いたお世話に感謝して居ります。又早速小冊子お送り下さいまして有難うございました。

飛鳥路は初めての旅路でとても印象深い、いい方々との出会いで一層感銘深いものがありました。私勉強不足でつくづく事前学習の不足を反省させられました。今後共よろしくお導きの程をお願い申し上げます。

み仏の慈悲を慕いて人々の巨碑なおつづく老杉のもと

千年の悲しみつづるこの山の昔のまゝ  
に野菊咲きおり

肌寒き高野の山の歌碑哀し

米水津村色利浦 高橋 徹

大和巡り雑感

三日間の社寺巡りで何百体もの仏像、何十棟の堂塔社殿を見たり、千年以上の時間帯を往復した。この同時多量の学習なるが

故に印象が分散した。自分の予習観点の粗漏も多い。二度三度訪れて深まっていくところと思うが、散策し思惟する場所を予定して時間を与えて欲しいと思う。

六甲の山は朝霧の陰に覆われて、斜面に広がる市街のビルを白さを一層引き立たせ、青い山を見なれた者にはコンクリートの街の異様なコントラストを感じ、同じ道の帰途の夜景ではあの硬さを闇に包みかくして華やかに化粧したネオンの顔。

法隆寺内の諸仏は薄暗い光の中にポツと浮かぶ。太子一族の鎮魂にふさわしい演出、横に柵あり側面も拝観出来ぬよう制限。塔の心柱四面の塑像も格子金網越しの暗さ、長い長い築地塀を囲らし封じ込めた死霊の往生地という梅原氏説もさこそ思われる。

鎮魂の寺法隆寺の感を強くして、薬師寺はまた明るく華やかで、女性的な建築群とともに四方から拝観できる解放性。脇侍菩薩の動的な感じの肢体にも何だか色気がただよう。東塔相輪の水煙と天女の透し彫りは三十七mの高さで見えなかったが、大仏殿庭の八角灯籠の天女透し彫りと共に千年

の風雪に耐えて来た。然しこれからの公害風雪の中で、果たして何百年続けられるだろうか。現在人の業の深さよ!!

信者を広めるには、お金と設備とそして演出とが必要であることを高野山で思った。神なびの三輪山に向い、文句なく地面にひれふしたであろう古人の信仰の姿に比し、ここ高野では何百かしらぬ巨杉の空間を、大名の権力と富とを誇示する巨大な塔が林立し、更に新しい現在の企業会社がそれにならぬ豪勢さを競っている。

それにくらべ、道なき所の巨杉の根元を枕にして横たわっている小さな名もなき五輪の思いやいかに。

佐伯市青山 大良 善男

奈良、高野山は数回訪れてはいたが、すでに記憶も古しいし、吉野山は初めてで、私達夫婦にとって大変意義のある四泊五日の旅でした。史談会幹部の方の親切な指導、それに神戸から乗り込んだバスガイド嬢の名案内振りは、旅をより楽しいものにしてくれました。この度の旅行で特に感じた事は、奈良にせよ、高野山にせよ、寺院の大きい

のと古い物の残っている事でした。

私は史跡を研究する事も、単なる旅行も大好きですが、今度の五日間は種々の面で非常に楽しく、ほんとうに幸せだと思えました。

### 佐伯市駅前 寺嶋 萬治

日本最古の仏教建築といわれる法隆寺、仏教伝来最も栄えた飛鳥の里の遺跡の数々、聖徳太子の誕生地橘寺、太子の仏教文化に対する偉大なる業績の昔を偲び、秋色深い吉野山に、楠木正行の如意輪寺に残した辞世の歌、義経と静御前の悲劇の昔を振り返り胸の迫る思いであった。また興福寺、粉河寺の拝観、威容を誇る東大寺、新築成った薬師寺、日本仏教の布教に偉大な功績を残した鑑真和尚の創建された唐招提寺の拝観等、印象に残る幾多の文化財を見学、又弘法大師真言密教の総本山高野山九〇〇mの山上に開けた市街寺院を参観し、如何に大師が優れた名僧であられたかを目の当りに見る事ができ、現在なお大師信仰の輪は常に国中に拡がるを見る時、その高徳偉大さにうたれるばかりでした。

今回の研修旅行によって、心が洗い清められる思いで、仏教に対する関心は深まりこの度の旅行こそ意義ある最良の旅であったと言えるでしょう。

私の郷旅して心清められ

### 佐伯市海崎 羽木 衛守

この度は至る所あらゆるものを見学させて頂いて、さすが史談会でなくてはの感に深く致しました。高野山はさることながら、吉野山の歴史を訪ねて、私達が小学校時代に教えられた南朝の歴史を目のあたりに見ることができ、ほんとに感激致しました。

楠木正行が歌を残した如意輪寺の扉、後醍醐天皇の塔尾御陵、蔵王堂等心に残りました。特に蔵王堂の大殿に大塔の宮が最後の酒宴を張らせられた最中に、村上彦四郎義光が宮の身代りに自刃する場面を想像して深い感銘にとめどなくじむ涙をどうすることもできませんでした。こんな感激を覚えた事はありませんでした。又如意輪寺の正行の「かへらじとかねて思へばあずさ弓なき数に入る名をぞとどむる」と残した遺品等、また天皇の御自作の

像と見れば見る程心にしみ入り感慨無量で、厳肅な何んとも言えない唯々頭の下る思いでした。永く心に残る事と思います。

指導者の方から、少しでも感想を出してほしいとのことでしたが、無学な者ですから遠慮させて頂きます。

### 大分市上宗方 宮崎 次子

秋空に恵まれました研修旅行は、ほんとに生命の洗濯になりました。先人の残された偉大な芸術の数々にふれ、このチャンスに行き合わせた幸せをしみじみ味わっております。綿密に御計画下さいました方々のお骨折りに厚く感謝申し上げますと共に心からお礼申し上げます。旅は道づれでこれを機会に史談会に入会させて頂いた幸せに存じました。道中のつれづれに俳句とは申せませんが、ただ五・七・五の字数を合わせましただけでお恥しいのですが……。

大和路はたわわな柿とあわだち草

秋草の中にのっそり野の仏

高野山けわしき程にありがたき

弘法のよくぞ見つけたり高野山  
お笑い草までに、誠にお世話になりました。  
た。重ねてお礼申し上げます。

佐伯市東区 深沢常吉

この度の研修旅行で忘れられない一瞬が  
ありました。それは本覚院の朝のおつとめ  
に参加した時の一瞬です。ご法主の読経と  
御講話の折、参詣者一同の姿態と面容の様  
が言うことのできない崇高な様にビックリ  
自分の不屈な精神をひどく鞭打たれました。  
そして私も遅まきながら少しでも仏心を悟  
るため懸命に努力を致したいと思いました。

本匠村堂の間 柳井ミサヲ

旅は道づれ世は情とか、大変お世話様  
になりました。生涯に二度とない旅でござい  
ました。心から感謝しています。史談会な  
らではの旅、こまごまと至る所で詳しいお  
説明ほんとによい旅でした。皆々様によろ  
しく申し上げて下さいませ。

直川村河内 山下貞男

今回の旅ほど、私にとって意義の深い旅

は外にありませんでした。遠い日本歴史の  
ふるさとを訪ね、何れの地も感激でした。  
箇所箇所一冊ずつ買ひ求めた冊子で帰って  
改めて心で旅をしてみたいと思つて目下勉  
強中です。

如意輪寺にて（中食後のひと時に）

吉野なるその奥山の葉がぐれに如意輪  
堂はひそと静まる

かへらじの辞世の歌に胸うたれ喰い入  
るが如く矢の跡を見る

悲そうなる若き武将の屯せしここ如意  
輪寺山は急なり

悲歌もあり軍書も悲しこもごもの思い  
をこめて碑にぞ手を置く

（今、外十五、六首の歌で感想文を  
まとめています。）

蒲江町畑野浦 脇谷新七

ヤス子

旅行の感想については何も言うことはご  
ざいせんが、何時も幹事役が苦勞するの  
が経費のことのようです。これは計画より

多めに計上しておいて、余れば積み立てて  
おき、歴史、考古学の先生を招いて講演を  
開催したら如何かと思ひます。積立てで不  
足の場合は当日不足分を出してもよいと思  
います。来年もよろしくお願いいたします。

吉野山にからがら逃れてこられた失意の  
天皇、正行、義経静御前等の遠い昔を偲び  
つつ、如意輪堂から蔵王堂と上り、下り、  
又上りの山路を随分歩きましたが、さすが  
史談会ならではの研修旅行をたっぷり味わ  
せて頂きました。

なお高野の山ではお大師様の温情を心一  
杯かみしめながら、外気の冷たさに比し、  
本覚院のお部屋の暖かいてもなしには、全  
く驚き感謝の言葉もございませんでした。  
ほんとに有難うございました。

佐伯市西上浦 上杉清喜

歴史の重み

（横町）に入れば鼻を衝く悪臭、電車も洋  
車（人力車）も之を引く車夫も軒を連ねる  
家々も何と古めかしく汚く感ぜられること

か。とんでもない所に来たものと言うのが歴史の都北京に第一歩を印した時の偽りない感想であった。

内地からの新参者はすぐ分かるのである。言い合せたように皆マスクをかけて居る。

これなくしては街全体に漂っている悪臭に耐えられなかった。居留民先輩諸氏の無神経とも思われる素振りに少々奇異の目を見はった。だがこの疑問も次第に解けて来た。日を経るに従い、その悪臭もいつの間にか雲散霧消して古都の香りと変って来た。八百年の歴史を包みこんだ不思議な匂いとなつて。

単なる慣れの故であろうか、いやこの言葉だけでは片づけられない何かがあった。

初夏の頃ともなれば槐えんじやうやアカシヤの花に乗って、何処からともなく漂うてくる香はたまらなく嬉しかった。そしてもうその頃は巨大な灰色の城壁、極彩色の牌楼（樓門）は朝霧に光る瑠璃色の紫金城等は申すに及ばず、街中に埋もりころがって居る一石一片の古瓦にすら頬ずりしたくなるようになっていた。

「北京は永く住まねばその良さが分らな

い」とは在留邦人の誰もが口を揃えての言葉であった。歴史（し）に関心のある人もない人も。

さて北京（ペキン）を中国の古都の代表とすれば青島（チンタウ）は新都の見本であつたらう。北京に名残りを借んで次の勤務地はこの街であつた。

白砂青松、東洋一を誇る海水浴場を擁し、赤一色に統一された屋根瓦は緑の松に映えて、まさに一幅の絵画そのものであつた。

ドイツが生み日本が育てたというこの街は、おゝよそ古い不潔な中国の匂いは微塵もなく、まさしく保養地、別荘地そのものであつた。居住にはこれ程快適な街はないと思

われたが、やがて日時の経過と共に次第にその良さは薄れ、そして飽きて来た。前者とは全く正反対であつた。又しも邦人の誰しもの言葉を耳にするようになった。「青島は味のよいのは最初だけで、永く住む街ではない」と。何故だろうか？

いさゝか前語りが長すぎたが今回の近畿歴訪は、私にとっては新旧両都の歴史の深淺を骨身に沁みて味わつた多感な青年時代をなつかしく思い起し、歴史あるものの値

打ちを敢て声を大にして叫びたかつたからに外ならない。歴訪の箇所は夫々に長い年月に培われた所であり、興また一入であつた。殊に奈良は曾遊の地だが前回とは又格別の味わいを感じたのも、あながち史談会の旅なるが故のみではなかつたように思う。そこには千年の歴史の重みがあるからではないだろうか。一度より二度、二度より三度いや四度と訪れる度にその味わいは深まって来るに違いない。

若し仮に来年、今年と全く同じコースの旅を計画しても、私は躊躇することなくいの一歩に申込もうと思ふ。そしてバスに乗りおかれて皆から苦情が出るまで一枚の瓦一本の柱にまでより長く長く見入って居ようと思つてゐる。

遠い遠い日本のふるさと、そこには幾度訪れてもあきることなく、心ひかれるものがある。

